

やまなし
医療最前線
症状に潜む
県立中央病院から

〈220〉

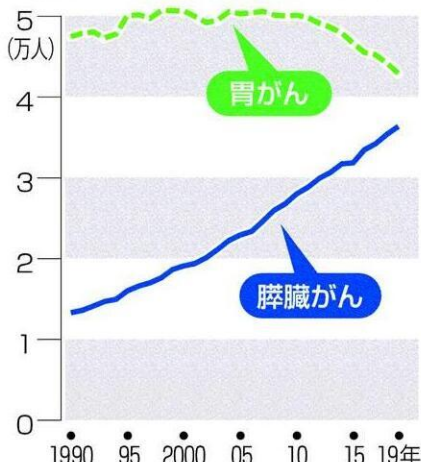


大山広医師

山梨県立中央病院消化器内科医長の大山広医師による。

一般的な消化器症状である胃の痛みは、膵臓がんのサインかもしれない。早期発見、治療の可能性を高めるには早めの受診が鍵となる。糖尿病など膵臓がんのリスクが高い人は、がん検診を積極的に受ける

膵臓がんと胃がんの死亡数



国立がん研究センターがん情報サービス「がん登録・統計」(人口動態統計)

痛み(腹痛)のほか、背中が見つかった時には進行していることが多く「切除できないのは2〜3割程度(大

胃の痛み 膵臓がんのサイン? 体重減、黄疸 過小評価せず

と、膵臓がんの死亡数は肺がん、大腸がん、胃がんに次ぐ第4位。高齢化や生活習慣の変化により年々増加している、近年、減少傾向となっている胃がんとは対照的となっている。膵臓がんの症状は、胃の

ある」と指摘。腹痛や体重減少などを過小評価しないことがポイントだとい

山医師)という厳しい現実がある。早期発見につなげるためには、どうすればいいのか。大山医師は「膵臓がん患者のうち、4分の1程度は症状が出てから受診まで

膵臓がんになりやすい人もいる。代表的な例が糖尿病で、膵臓がんは糖尿病を悪化させる要因ともなる。糖尿病を発症したタイミングや、糖尿病患者で口の渇きが強くなったり、尿が多くなったりした場合は膵臓がんを視野に入れるきっかけとなる。

近年はがんゲノム医療が進歩し、膵臓がんの原因となる遺伝子異常も分かっている。家族に同じ遺伝子異常によるがん経験者がいるならば注意を払うことができる。

膵臓がんになりやすい人もいる。代表的な例が糖尿病で、膵臓がんは糖尿病を悪化させる要因ともなる。糖尿病を発症したタイミングや、糖尿病患者で口の渇きが強くなったり、尿が多くなったりした場合は膵臓がんを視野に入れるきっかけとなる。

膵臓がんが疑われる患者を対象に、胃や十二指腸から隣接する膵臓を確認できる超音波内視鏡を導入。1センチ以下という極めて微小のがんを発見することにも複数回成功している。

新たな検査手法も登場している。同院は2018年